

日 時：2023.8.28（月） 19時～

場 所：zoom形式

参加者：白鳥（高崎健康福祉大学）、林（大島病院）、堀ノ上（大島病院）、中嶋（群馬県立精神医療センター）、神尾（ハローワーク高崎）、工藤（相談支援事業所みのり）、長嶋（ワークセンターまえばし）、松井（群馬病院）

議題

1. 書記の募集

今回（8月）松井、次回（10月）堀ノ上さん、次々回工藤さん、次々次回長嶋さん

2. 前回出た活動案の確認

- ① グループワーク研修
- ② 群馬版ピーコの部屋（匿名性掲示板的なもの）
- ③ 倫理研修
- ④ 非会員にも開かれた場作り

3. 今年度の活動について

・活動案から今年度いくつ実行できそうか？

→1年目に4つすべて行うのは困難ではないだろうか。まずは基盤構築が必要。

実行できても1～2つ？

・グループワーク研修や掲示板は実際どこまで意見を吸い上げられるかという疑問もある。

→明確なテーマ、細かなテーマ設定がないと意見が出にくいのではないか。

・話せる場など経験年次の浅いMHSWのニーズはありそうか？

→新入職者を研修に参加させたところ、色々なSWと関わったことは勉強になったとの意見はあった。一方で参加を促している経緯もあり、研修や場があるという情報をどうやって得るのかも課題。最初にどうつながるか、横のつながりの大切さ。

最初は情報交換から始めて、各々が感じている疑問、倫理的な部分を掘り下げていくといった徐々に掲示板等を周知していくのがいいのかもしれない。

・場の設定は？

→オンラインでは情報のみの伝達になり、情緒の伝わりにくさがある。倫理という視点からも対面的な場での研修の方が良さそう。集合形式での開催を検討する（ハイブリット開催も視野に入れつつ）。

・どんなネタだったら人が集まるのか？

→事例検討だと事例提供者に負担が掛かったり、重たい内容になってしまう？

カリスマ的ワーカーと話したい、語らおうというニーズ。長期入院、保護室など新人ワーカーが食いついて、カリスマ的な人との交流を求めた。先輩ワーカーとのかかわり。

実践報告会。自分たちの実践について話し、それを肴に交流を促す。

話をしたい人、したくない人もいる。倫理の話、倫理観になるとやはり情緒の交流ができる場の方が良い。目の前に人がいる場面（集合形式）の方が、聞いている人のリアクションを見ながら話をするができる。

患者さん、利用者さんの気持ちを考える、ということ、当事者たちに生じる制限等について当人の立場に立てば嫌と思うことは当然にあるのでは。そういうことを考えられるのもいいかもしれない。

人が食いつきやすいテーマ 人権、虐待、滝川病院。東京都のマツナガ支部長にオンライン参加してもらい、精神保健福祉士としてどのようにやってきたのかということ語ってもらう。

4. 今後について

次回までは議論を行い、その後具体的な内容に入るのはどうか。

ゴール設定があると考えやすい。

委員会のチラシ→倫理委員会が立ち上がっているという案内。

倫理委員会という名称でいいのか？

倫理委員会のスタンスを発信していく必要はありそう。

5. 決まった内容

・2月に何かしらを開催

・委員会のチラシ

・1人2アイデア →次回 zoom 会議までに LINE で共有する

・次回倫理委員会は10月開催